

平成21年度新城老人いきいの家の管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	社会福祉法人 川崎市中原区社会福祉協議会（中原区今井上町34番地）
(2) 指定期間	平成21年4月1日 ～ 平成26年3月31日
(3) 業務の範囲	<p>1 老人いきいの家の運営等に関する業務</p> <p>ア 教養の向上及びレクリエーション活動に関する事業の実施</p> <p>イ 虚弱な高齢者を対象とする介護予防に資する取組み</p> <p>ウ 団塊世代の利用の促進に資する取組み</p> <p>エ 利用者の自主活動に対する活動の場の提供</p> <p>オ 入浴事業</p> <p>カ 川崎市及び川崎市から事業を委託された団体が実施する事業への場の提供</p> <p>キ 運営委員会の設置・運営に関すること</p> <p>2 利用の許可に関する業務</p> <p>3 老人いきいの家の利用等の報告に関する業務</p> <p>4 施設等の維持管理に関する業務</p>

2 管理運営(事業執行)に対する評価

評価項目	平成21年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
①管理運営の基本的事項	<p>高齢者の健康いきがいくりの場、小地域福祉活動の実践の場及び地域拠点の場を基本方針として、教養講座や各種レクリエーションの実施、異世代交流や高齢者配食活動などへの場の提供、地域開放型の老人いきいの家の運営に努めた。運営委員会と利用者団体の共催による「老人いきいの家まつり」を行った。管理人は、受付で利用者が利用簿に記入する際などに声かけを行い、日常との変化はないか確認を行った。また、公平にサービスを提供するため、教養講座の内容や団体利用等の内容及び利用回数等について、公平に利用できるよう配慮した。</p>	<p>運営委員会を通じたニーズ把握及び地区社会福祉協議会との連携により、地域に根ざした施設として、概ね適切に管理運営がなされている。また、管理人による声かけや教養講座申込状況・団体貸出申込状況の公開など、高齢者の心身や公平なサービス提供にも十分な配慮がなされている。</p>
②安全管理への取り組み	<p>防火管理者資格の取得を促進し、市民救命士及びホームヘルパー3級の資格を取得した管理人を配置している。具体的には、利用者が入浴する際に血圧測定を実施し、平常値と異なる数字が出た場合には入浴しないよう指導したほか、入浴時は複数での利用をお願いし、体調急変等が発生した場合の即座の対応に努めた。また、防災訓練を実施し、緊急時の対応を確認した。</p>	<p>概ね適切な安全管理がなされている。高齢者の入浴の危険性を年頭に置いた取組みを行っていること及び避難訓練を実施していることは評価できる。今後においても、さらなる安全管理に努めるよう指導していく。</p>
③運営に関する業務	<p>介護予防に資する取組みとして、教養講座の開催やリハビリグループへの団体利用、団塊世代の利用促進の取組みとして、事業の周知を関係団体を通じて行った。また、新たな利用者や地域の方々とのふれあいや生きがいくりの場として交流を深めてもらえるよう、自主活動を支援した。教養講座の広報にあたっては、定員の制限があることもあり、運営委員会による地域住民への周知を行った。その他、いきいの家内に講座募集の掲示を行い、周知を図った。また、入浴事業の実施にあたっては、入浴水質の安全確保のために、川崎市衛生研究所へ検体を提出したほか、塩素濃度検査も実施した。</p>	<p>年度を通じて順調に運営が行われており、特に、介護予防や団塊世代の利用促進については、実施に取組んだ。また、入浴事業についても、安全面に配慮し、円滑に実施されている。今後においても、各事業の充実を図ることを期待する。</p>

評価項目	平成21年度管理運営の状況	評価及び指導																
(2) 利用状況																		
①利用状況	<table border="1"> <tr> <td>団体利用者数</td> <td>4,139 人</td> </tr> <tr> <td>個人利用者数</td> <td>5,054 人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>9,193 人</td> </tr> <tr> <td>入浴者数</td> <td>477 人</td> </tr> </table>	団体利用者数	4,139 人	個人利用者数	5,054 人	利用者数	9,193 人	入浴者数	477 人	前年度の状況と比較し、利用者数は約610人減少している。事業内容や広報を工夫するなどして、魅力ある施設づくりを行うことを望む。								
団体利用者数	4,139 人																	
個人利用者数	5,054 人																	
利用者数	9,193 人																	
入浴者数	477 人																	
②講座・行事の実施状況	<table border="1"> <tr> <td>教養講座実施回数</td> <td>66 回</td> </tr> <tr> <td>教養講座参加人数</td> <td>566 人</td> </tr> <tr> <td>行事实施回数</td> <td>4 回</td> </tr> </table>	教養講座実施回数	66 回	教養講座参加人数	566 人	行事实施回数	4 回	行事は、ほぼ計画どおり実施されているが、教養講座については、計画数に達しなかった。今後もより一層の内容の充実を望む。										
教養講座実施回数	66 回																	
教養講座参加人数	566 人																	
行事实施回数	4 回																	
(3) 収支状況																		
① 収支状況	<table border="1"> <tr> <td>委託料</td> <td>2,784,608 円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>2,784,608 円</td> </tr> <tr> <td>支出金額</td> <td>2,760,904 円</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>2,298,434 円</td> </tr> <tr> <td>事務費</td> <td>155,511 円</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>174,359 円</td> </tr> <tr> <td>消費税</td> <td>132,600 円</td> </tr> <tr> <td>収支差額</td> <td>23,704 円</td> </tr> </table>	委託料	2,784,608 円	指定管理委託料	2,784,608 円	支出金額	2,760,904 円	人件費	2,298,434 円	事務費	155,511 円	事業費	174,359 円	消費税	132,600 円	収支差額	23,704 円	委託料の範囲内で適切な執行を行ったことは評価できる。今後ともサービスの質を維持しながら、適切な委託料の執行を望む。
委託料	2,784,608 円																	
指定管理委託料	2,784,608 円																	
支出金額	2,760,904 円																	
人件費	2,298,434 円																	
事務費	155,511 円																	
事業費	174,359 円																	
消費税	132,600 円																	
収支差額	23,704 円																	
(4) その他																		
① 利用者からの意見・要望等への対応	要綱を設置し、苦情受付担当者・苦情解決責任者の設置、さらに第三者委員を委嘱し、苦情受付体制を作っている。また、意見箱を設置し、いこいの家の運営等に対する意見や要望等の把握に努めた。また、利用者から管理人を通じて寄せられた意見等を運営委員会で協議した。なお、いこいの家まつりでは、運営委員会と参加団体等との実行委員会形式を取り、参加団体等の意見を取り入れた。	利用者からの意見・要望等が出しやすきよう工夫されており、対応体制もしっかりしている。																
② 個人情報の保護	本会は、個人情報に関する方針(プライバシーポリシー・平成17年5月25日制定)に基づき、プライバシーポリシーをいこいの家に掲示し、周知した。利用者には、事故等への対応が不可欠なことから、初回利用日に「緊急連絡先記録簿」への記入に理解を求めた。なお、職員は「川崎市社会福祉協議会職員倫理要領」により、職務上知り得た個人情報について秘密を守り、退職後も守秘義務を負うこととしている。また、利用者が受付で記帳した住所や連絡先等の個人情報については、保管場所に保管し施錠して第三者の目に触れることのないように厳重に取扱った。	緊急時に備えて利用者の個人情報を保有しているが、方針に基づき、協定に従って適正な維持管理が行われている。今後とも個人情報保護の徹底を望む。																

3 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

平成21年度においては、指定管理業務第1期目の1年目にあたり、前期の指定管理者から変更した施設である。概ね事業計画に沿った管理運営を行っており、特に介護予防に資する取組みや、団塊世代の利用促進に資する取組みについて、積極的な取組みに努めた。また、近隣の中学校と連携し、研修を受け入れるなどの交流が図られている。引き続き高齢者の健全ないこの場として高齢者の心身の健康増進に寄与できるよう、さらに多くの高齢者に利用してもらえるように努めて欲しい。

4 22年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

・さらなる利用者意見の把握に努めるとともに、魅力ある教養講座や行事の実施に努めること。
・利用者数が前年度に比べ減少しているため、介護予防や団塊世代の利用促進につながるような、魅力ある教養講座や行事を実施し、多くの高齢者に利用してもらえるよう努めること。